

旅行取扱状況の概観（令和 8 年 6 月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト、近畿日本ツーリストブループラネット、クラブツーリズム、ユナイテッドツアーズ、KNT 商事の合算額となります。

記

国内旅行の取扱額のうち、一般団体は前年比 92.0%、学生団体は同 101.5%、団体旅行合計では同 97.9%となった。企画旅行については前年比 94.6%となった。この結果、国内旅行総取扱額としては、前年比 96.6%と前年度を下回った。

海外旅行の取扱額のうち、一般団体は前年比 91.5%、学生団体は同 147.4%、団体旅行合計では同 101.4%となった。企画旅行については前年比 98.0%となった。この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比 102.7%と前年度を上回った。

訪日旅行は、前年比 85.9%と前年度を下回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の 6 月の総取扱額は、前年比 97.3%と前年度を下回った。

【区分別の状況】

1. 国内旅行

国内団体については、企業系コンベンション等の取扱いが増加したものの、大型団体の受注が伸び悩み、一般団体は 92.0%と前年度を下回った。

学生団体は、修学旅行およびオリエンテーション・研修旅行の取扱いが増加し、学生団体旅行合計で 101.5%と前年度を上回った。

国内企画旅行については、前年比 94.6%となった。国内自社企画（フリー型商品）では、沖縄方面が好調に推移するも、都市部の宿泊旅行が伸び悩み、前年比 69.0%となった。クラブツーリズム国内（添乗員付商品）では、自治体による団体旅行支援施策を活用した北陸方面や山陰・山陽方面が好調に推移するも、前年度の万博の反動の影響により関西方面が伸び悩んだほか、北海道および北東北方面も伸び悩み、前年比 98.4%となった。

以上の結果、国内旅行の総取扱額としては、前年比 96.6%となった。

2. 海外旅行

海外団体については、企業の視察・研修旅行の取扱いが伸び悩み、前年比 91.5%となった。学生団体は修学旅行や語学研修の取扱いが増加し、前年比 147.4%となった。この結果、海外団体旅行合計では前年比 101.4%となった。

海外企画旅行については、前年比 98.0%となった。クラブツーリズム海外（添乗員付商品）は、アジア方面が好調に推移するものの、中東情勢の影響を受けるヨーロッパ方面などが伸び悩み、前年比 98.0%となった。

以上の結果、海外旅行の総取扱額としては、前年比 102.7%となった。

3. 訪日旅行

個人旅行では、東アジア・東南アジア市場からの需要の取り込みが好調に推移したものの、宿泊施設における直前の価格引下げなど、市場価格の変動の影響を受けて販売額が伸び悩んだことに加え、団体旅行では前年に取り扱った大型団体旅行の反動もあり、訪日旅行全体では前年比 85.9%となった。